

学会企画プログラム

令和5年9月2日（土）

1. 開会式 10：40～

- 1) 開会宣言 第36回中国ブロック理学療法士学会 副学会長 高橋 哲也
- 2) 挨拶 第36回中国ブロック理学療法士学会 学会長 高橋 真
中国ブロック理学療法士会 代表士会長 三谷 管雄
公益社団法人 広島県理学療法士会 会長 甲田 宗嗣
- 3) 祝 辞

2. 学会長基調講演 11：00～11：30

理学療法新時代

講師 広島大学大学院医系科学研究科 高橋 真

司会 倉敷市立市民病院 兼) 倉敷市役所地域包括ケア推進室 出口 仁

3. 教育講演 13：00～14：00

運動器理学療法において“動き”をみる意義とその未来

講師 京都大学大学院医学研究科 建内 宏重

司会 広島国際大学 木藤 伸宏

4. シンポジウム 14：10～15：50

理学療法の「シンカ」を問う

シンポジスト 「進化」 広島大学病院 診療支援部リハビリテーション部門 平田 和彦

「深化」 島根大学医学部附属病院 リハビリテーション部 江草 典政

「真価」 JA山口厚生連 周東総合病院 リハビリテーションセンター 川端 悠士

「新価」 株式会社 i-Reha 佐藤 友紀

司会 広島都市学園大学 猪村 剛史

広島大学病院 診療支援部リハビリテーション部門 岩本 義隆

令和5年9月3日（日）

5. 特別講演 10：00～11：00

理学療法士の“シンカ”のために

講師 公益社団法人 日本理学療法士協会 斉藤 秀之

司会 広島都市学園大学 甲田 宗嗣

6. 次期学会長挨拶 12：10～12：20

第37回中国ブロック理学療法士学会 副学会長 大森 隆生

7. 市民公開特別講座 13：00～14：00

介護予防のシンカー—新たな時代に求められる対策法—

講師 筑波大学 人間系 山田 実

司会 県立広島大学 梅井 凡子

8. 日本理学療法士連盟合同シンポジウム 15：20～16：20

9. 表彰式 16：20～

10. 閉会式

閉会宣言 第36回中国ブロック理学療法士学会 準備委員長 猪村 剛史

9月2日(土) 11時00分～11時30分 ホール

学会長基調講演

理学療法新時代

広島大学大学院医系科学研究科 教授

講師 **高橋 真** 先生



1966年に理学療法士183名が誕生してもうすぐ60年、今や理学療法士国家試験合格者累計は約20万人に及ぶ。2021年には日本理学療法士協会より「理学療法原論」や「理学療法ガイドライン(第2版)」が発行されたことから明らかなように、我が国の理学療法が進化・深化したことは間違いない。本講演では本学会のメインテーマ「理学療法の「シンカ」を問う—進化・深化・真価・新価—」に込めた想いと各学会企画との関連を紹介する。

一方で、漠然とした理学療法士の未来に対する閉塞感が漂っているとも感じる。これまでの歩みの延長線上にはない「理学療法新時代」に向けて、理学療法士一人ひとりが未来の創り手として、何ができるかだけでなく、何をすべきか。まずはこの学会会期中に一人ひとりが考える、あるいは議論するきっかけを提供したい。

経歴

【学歴】

- 2001年3月23日 広島大学医学部保健学科理学療法学専攻卒業
- 2003年3月23日 広島大学大学院医学系研究科保健学専攻博士課程前期修了
- 2006年3月23日 広島大学大学院国際協力研究科教育文化専攻博士課程後期修了

【職歴】

- 2006年4月1日 国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所 流動研究員
- 2007年4月1日 広島大学大学院保健学研究科 助教
- 2012年9月1日 広島大学大学院医歯薬保健学研究院 講師
- 2019年4月1日 広島大学大学院医系科学研究科 教授

【所属学会】

日本体力医学会、日本バイオメカニクス学会、日本災害医学会、International Society for Posture and Gait Research

【社会における活動】

日本理学療法士協会 代議員、広島県理学療法士会 副会長、広島災害リハビリテーション推進協議会 副会長

【現在の研究テーマ】

立位姿勢・歩行を中心とした様々な身体運動の制御・学習機序の解明に向けたバイオメカニクスと神経科学を統合した研究

9月2日（土）13時00分～14時00分 ホール

教育講演



運動器理学療法において “動き”をみる意義とその未来

京都大学大学院医学研究科 准教授

講師 **建内 宏重** 先生

下肢関節や脊柱、肩関節などにおける各種運動器疾患に関する国内外のガイドラインにおいて、運動療法や患者教育は症状や身体機能の改善に有効であることが示されている。一方で、理学療法の長期的効果や予防効果、エビデンスの実臨床や実環境への実装は、各種疾患に共通した課題である。

運動器理学療法においては、メカニカルストレスが関節局所に及ぼす影響の理解が重要であり、またそれに影響を与える歩行など全身運動の理解が必須である。動きの異常が運動器疾患・障害の発症や悪化の原因になる可能性があるという点において、運動器領域において動きをみることはとりわけ大きな意味を持つ。動作計測・解析のゴールドスタンダードは、3次元動作解析システムによるものであるが、近年では、ウェアラブルセンサや画像解析技術を活用した様々な手法が開発されており、実臨床における動作評価あるいはそれらの実環境での活用も変わろうとしている。本講演では、運動器領域における動きの評価の重要性とその未来について、世界的な動向とともに演者らの取り組みについても紹介する。

経歴

【学歴】

- 1998年 京都大学医療技術短期大学部理学療法学科卒業
- 2004年 神戸大学大学院医学系研究科博士前期課程修了 修士号取得（保健学）
- 2011年 京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程修了 博士号取得（人間・環境学）

【職歴】

- 1998年 大阪医科大学附属病院リハビリテーション科 入職
- 2006年 京都大学医学部保健学科理学療法専攻 入職（助手）
- 2007年 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻（助教）
- 2009年 セントルイス・ワシントン大学理学療法専攻 客員研究員
- 2018年 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 予防理学療法講座（特定准教授）

2021年 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 先端リハビリテーション科学コース
先端理学療法学講座 運動機能開発学分野 臨床バイオメカニクス研究室（准教授；現職）

【所属学会】

日本運動器理学療法学会、日本基礎理学療法学会、日本股関節学会、日本臨床バイオメカニクス学会、
OARSI (Osteoarthritis Research Society International)、他

【社会における活動】

日本運動器理学療法学会 副理事長、運動器理学療法学 編集委員長、理学療法学/Physical Therapy
Research 編集委員、京都府理学療法士会理事（学術局長）、World congress program committee
member (OARSI)、他

【専門理学療法士、現在の研究テーマ】

専門理学療法士（運動器、基礎）

- ・ 関節機能障害のメカニズムとその改善方法に関する研究
- ・ 姿勢や動きの新たな計測・解析方法の開発
- ・ 運動機能障害の改善および予防に関する研究

9月3日（日）10時00分～11時00分 ホール

特別講演

理学療法士の“シンカ”のために

公益社団法人 日本理学療法士協会 会長

講師 齊藤 秀之 先生



高橋真学会長のご挨拶で紹介されたように「シンカ」には多くの意味がある。これらの多くの意味は「新しい、前に進む」と「深掘りする、磨き上げる」に収束される。さて、私に与えられたテーマである「理学療法士の『シンカ』」のためには、この2つの意味を指針として行動することが重要であり、今までも継承されてきたと考察する。しかしながら、社会情勢を鑑みると今まで継承されてきたことを総括し、2つの意味を包含した新たな視点での課題解決が必要と考える。現在、我が国の理学療法士は21万人を輩出している国家資格者の職能集団であり、その平均年齢が30歳代半ばであり、世界的にも人口当たりの理学療法士数は多い。こうしたことを強みとして、新しい価値の創造に活かすことが我々の使命である。未来を決して危ぶむことなく、各々が「シンカ」を問い続けることを期待する。

経歴

【学歴】

- 昭和63年3月 金沢大学医療技術短期大学部理学療法学科 卒業（現金沢大学医学部保健学科）
- 平成6年9月 佛教大学通信教育課程社会学部社会福祉学科社会福祉学専攻 卒業 学士（社会学、佛教大学）
- 平成11年3月 筑波大学大学院修士課程医科学研究科医科学専攻 修了 修士（医科学、筑波大学）
- 平成14年3月 筑波大学大学院博士課程医学研究科環境生態系専攻 修了 博士（医学、筑波大学）

【職歴】

- 昭和63年4月 藤井脳神経外科病院 リハビリテーション科 入職
- 平成9年4月 医療法人社団筑波記念会 筑波記念病院 入職
- 平成16年2月 医療法人社団筑波記念会 筑波記念病院 リハビリテーション部部长 就任
- 平成26年～28年 医療法人社団筑波記念会 リハビリテーション事業 統括～顧問 就任
- 平成29年6月 医療法人社団筑波記念会 顧問 就任（～平成30年7月）
- 平成23年6月 社団法人 日本理学療法士協会 理事 就任
- 平成25年6月 公益社団法人 日本理学療法士協会 副会長 就任

平成30年6月 公益社団法人 日本理学療法士協会 常勤役員として勤務

令和3年6月 公益社団法人 日本理学療法士協会 会長 就任（現在2期目）

現在に至る

【社会における活動】

公益社団法人 日本リハビリテーション医学会 特任理事

公益社団法人 日本脳卒中協会 理事

一般社団法人 日本災害リハビリテーション支援協会 理事・副代表

一般社団法人 全国リハビリテーション学校協会 理事長選任理事

一般社団法人 日本リハビリテーション病院・施設協会 外部理事

一般社団法人 リハビリテーション教育評価機構 理事

一般社団法人 日本小児リハビリテーション医学会 理事／評議員

一般社団法人 RainboW Walking 理事

一般社団法人 日本脳卒中医療ケア従事者連合 理事

一般社団法人 日本訪問リハビリテーション協会 監事

ニューレジリエンスフォーラム 発起人／企画委員会委員 他

【所属学会】

日本リハビリテーション医学会、日本公衆衛生学会、日本プライマリ・ケア連合学会、日本医療マネジメント学会、日本医学教育学会、日本心臓リハビリテーション学会 他

【現在の研究テーマ】

理学療法、地域リハビリテーション

9月3日（日）13時00分～14時00分 ホール

市民公開特別講座



介護予防のシンカ —新たな時代に求められる対策法—

筑波大学 人間系 教授

講師 山田 実 先生

介護予防、健康寿命を延伸させ要介護状態になるのを予防することを指します。この介護予防には、“運動”、“栄養”、“社会参加”という3つの要素を促進させること重要であることが分かっています。では、どうすればこれら3要素を“促進”することができるのか、そして、どうすればそれらを“継続”することができるのか。本講演では、介護予防に関する基本的な情報を整理した上で、コロナ禍で高齢者に及んだ影響、社会参加の重要性、日常生活で留意していただきたい点、オンラインの活用などについて紹介したいと思います。「今」介護予防が必要な方、「これから」介護予防が必要となる方、それに「介護予防を支援するご家族・専門職の皆様」、様々な方にとっての介護予防の『今』そして『これから』を考えるきっかけになれば幸いです。

経歴

【学歴】

- 2005年 神戸大学医学部保健学科卒業
- 2007年 神戸大学大学院医学系研究科博士前期課程修了
- 2010年 神戸大学大学院医学系研究科博士後期課程修了（保健学博士）

【職歴】

- 2008年 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 助手
- 2010年 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 助教
- 2014年 筑波大学人間系 准教授
- 2019年 筑波大学人間系 教授

【所属学会】

日本老年療法学会（副理事長）、日本予防理学療法学会（理事）、日本栄養嚥下理学療法学会（理事）、日本転倒予防学会（理事）、日本サルコペニア・フレイル学会（理事）、日本リハビリテーション連携学会（理事）、日本老年医学会（代議員）、日本体力医学会（評議員）など

【社会における活動】

Asian Working Group on Sarcopenia (Board member)

Geriatrics & Gerontology International (Associate Editor)、日本老年療法学会誌 (編集委員)、理学療法学 (編集委員) など

厚生労働省 一般介護予防事業等の推進方策に関する検討会 委員

厚生労働省 介護予防マニュアル第4版 作成委員

厚生労働省 日本健康会議ワーキンググループ 委員 など

【現在の研究テーマ】

高齢者の健康寿命延伸に関する研究

9月2日(土) 14時10分～15時50分 ホール

シンポジウム

理学療法の「シンカ」を問う

シンポジスト



広島大学病院
診療支援部リハビリテーション部門長

進化 **平田 和彦** 先生



島根大学医学部附属病院
リハビリテーション部 療法士長

深化 **江草 典政** 先生



JA 山口厚生連 周東総合病院
リハビリテーションセンター 理学療法士

真価 **川端 悠士** 先生



株式会社 i-Reha
代表取締役

新価 **佐藤 友紀** 先生

理学療法士はどのような未来に向かって進むべきか。あるいは、理学療法を深く掘り下げることで見えてくるあるべき姿とは。さらに、理学療法の真髄とは何か。そして、時代の変遷に伴う社会環境の変化や新たな社会の要請に対してどのような責務を果たすべきか。理学療法の様々な「シンカ」について、各分野の第1線で活躍されている4名のシンポジストより、それぞれの「シンカ」についてお話いただきます。シンポジストによる講演後、全体討論の時間を設け、理学療法士の未来のあるべき姿とその実現に向けた道筋について、参加者全体で意見交換・議論できる場になればと考えております。